

令和2年度 東京都立板橋高等学校 学校経営報告

東京都立板橋高等学校長
西島 宏和

数値目標の達成状況

2年度の数値目標		2年度結果	過去のデータ(31年度)
1	遅刻指導の強化 ・遅刻者6.0%以下	1学年 1.6% 2学年 4.4% 3学年 6.3%	1学年 2.6% 2学年 5.3% 3学年 5.9%
2	学習習慣の確立 ・自主学習時間 1日1時間以上 60%以上	1学年 78.6% (平日) 2学年 80.3% (平日) 3学年 46.7% (平日)	1学年 66.2% 2学年 65.1% 3学年 60.7%
3	学力向上 ・学力スタンダード学力調査得点 50%以上	各学年ともに、定期テストの実施により、殆どの教科において調査得点が50%前後であった。	
	体力向上 ・全学年前年度を上回る	令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査は実施できなかった。	
	授業評価(肯定的評価)75%	79.0%	79.7%
	・土曜講習参加者 延べ2000名以上	3688名	2522名
	・図書館の貸出冊数3,000冊以上	3624冊	4707冊
4	基礎的・汎用的能力の育成 ・自習室開室180日以上	新型コロナウイルス感染症対策として、休校や下校時間の繰り上げ等により、自習室開室は難しい状況であった。	1学年 20日(展開教室401) 2学年 20日(展開教室301) 3学年 25日(学年教室等)
5	1学年生徒部活動加入率85%	64%	61%
6	・自立支援教育プログラムの活用 1、2学年6回	1学年3回、2学年3回、3学年2回	1学年4回、2学年2回
7	・4年制大学進学率40%	46.7%	33%
	・日東駒専以上現役合格10名	14名	5名
	・国公立大学1名合格	0名	1名
	・就職内定率100%	100%	100%
	・進路未決定者10%未満	7.1%	10.1%

8	安全教育の推進 (災害安全) ・上級救命講習 1 学年生徒受講	「東京消防庁及び東京防災救急協会と連携した上級救命講習実施校」として2 学期に実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。	臨時休校のため中止
9	大学入試問題研究及び生徒対象講習	3 学年を中心に実施	実施
	授業見学 授業見合おう月間(6 月、11 月)	若手教員育成研修研究授業の参観があった。	若手教員育成研修研究授業の参観があった。
10	教育公務員 ・サービス事故防止 研修3 回	サービス事故防止研修3 回	サービス事故防止研修3 回
11	募集、広報活動の充実・塾訪問 100 塾以上	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため塾訪問を実施しなかった。	130 塾
	・中進対1.0 倍以上	1.81 倍 (男子1.67 倍、女子1.94 倍)	1.57 倍 (男子1.45 倍、女子1.70 倍)
	入学者選抜1 次最終応募倍率 1.35	1.65 倍 (男子1.60 倍、女子1.70 倍)	1.47 倍 (男子1.52 倍、女子1.41 倍)
	・入試対策講座 5 教科2 回	5 教科1 回、2 回の実施を予定していたが、緊急事態宣言のため、1 回中止とした。	5 教科2 回
	・文化祭来場者数 1,300 名以上	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。	1906 名
12	・ホームページ更新 200 回以上	168 回	190 回

1 今年度の取組と自己評価 自己評価基準: 【A】十分に達成できた 【B】概ね達成できた 【C】あまり達成できなかった

(1) 教育活動への取組	(2) 重点目標への取組	自己評価
1 組織的・学校経営の推進 【B】		
<ul style="list-style-type: none"> 企画調整会議 戦略検討 主幹会議 主幹教諭6名の連携・協力、ミドルマネジメントの強化 「チーム板橋」の構築 教職員の情報の共有化 		<ul style="list-style-type: none"> 企画調整会議(35回)において重要案件について集中的に検討を行った。 主幹会議を定期的に開催し、企画調整会議前の組織的課題の検討・調整を行った。 教職員の情報の共有化 必要に応じて打合せ、臨時の会議を実施した。
2 規範意識の向上 【A】		
<ul style="list-style-type: none"> 挨拶の励行、マナー尊重の精神の育成。 朝、昼休みの正門等における指導、授業時巡回の実施。 セーフティ教室、薬物乱用防止教室の充実 情報モラル教育の推進 		<ul style="list-style-type: none"> 生徒部及び学年で遅刻防止指導を行った。 挨拶は、全体としては良い方向になっている。 交通安全指導として、自転車の傘さし・イヤホン走行禁止に係る指導を行った。 身だしなみ指導の一環として、3 学期よりスカート指導を開始した。 <p>【学校評価アンケート】遅刻しないように、時間を守る努力をしている。生徒肯定的回答 90.4%</p>
3 学習習慣の確立ー自主学習時間の伸長ー 【B】 4		

<ul style="list-style-type: none"> ・学習と生活の時間の自己管理(記録)指導 ・定期的な自主学習時間調査 ・生徒による授業評価の実施及び結果分析 ・教育課程の評価・検証・改善 ・授業改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習時間調査 教務部主導で定期考査ごとに実施した。 ・自主学習時間伸長、引き続き更なる伸長を図る。1、2年生については目標を達成した。3年生の学習時間の伸長が課題である。 ・「生徒による授業評価」教育実践研究オフィスFの分析、改善提案により、授業改善につなげることができた。 <p>【学校評価アンケート】生徒は学校生活に満足している 保護者肯定的回答 88.5%</p>
<p>4 学力向上、体力向上 【B】</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・学カスタンダード作成及び組織的・効果的な指導 ・教科会の充実を図る ・自主学習時間の伸長 ・土曜講習の充実、読書活動の推進 ・ICT 機器等を活用した効果的な教科指導の工夫 ・英語教育の改善・充実—JET、ALT の活用— ・リビッパ・パ・リビッパ教育の推進 5つの資質の育成(全教科合計、年 35 単位時間) ・主権者教育の推進(地歴・公民科等) ・体力・運動能力の向上 体力テスト実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科主任会の月 1 回定例開催は実現できなかった ・自主学習時間は1、2年生で伸長が見られた。 ・土曜講習を 11 回開催した。 ・教員及び司書連携による指導を実施した。 ・ICT 機器を活用した授業を展開した。 ・ALT の活用し、TT の充実を図った。JET については、新型コロナウイルスの影響で活用できなかった。 ・リビッパ・パ・リビッパ教育は、教科内で実施した。 ・主権者教育は地歴公民科の教員により実施した。 ・体力テストは実施できなかった。 <p>【学校評価アンケート】主体的に学習に取り組んでいる。生徒肯定的回答 30.0%</p>
<p>5 系統的なキャリア教育の推進 【B】</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒情報の共有化 ・一人一人の生徒の学習状況把握(入学から卒業までの推移データの整備・活用)ときめ細やかな対応。 ・上級学校説明会等への学年積極的参加、情報収集・活用。 ・ガイダンス、個別相談の充実。 ・同窓会との連携 講演会 社会で活躍する/してきた卒業生を講師として招聘。 ・「都立高校生のための社会的・職業的自立支援教育プログラム事業」の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・拡大学年會開催等により、生徒情報の共有化進展。 ・模試の結果分析会、3 学年共通テスト受験クラス生徒の目線合せを実施。 ・上級学校の説明会は、進路指導部担当が一覧作成、周知し、3 学年担任が参加して情報を収集し、学年で活用した。 ・夏季休業日等に三者面談を行うとともに、きめ細やかな進路指導を行った。 ・同窓会と連携した講演会はコロナ禍のため実施しなかった。 ・「社会的・職業的自立支援教育プログラム事業」は 8 回実施し、進路意識の向上を図ることができた。 <p>【学校評価アンケート】希望する進路実現につながる指導を行っている。生徒肯定的回答 76.5%</p>
<p>6 基礎的・汎用的能力の育成 【B】</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ホームルーム活動、総合的な学習の時間、総合的な探究の時間等を通じて、在り方生き方を考えさせるとともに、「基礎的・汎用的能力」を身に付ける意義を繰り返し理解させる。 ・週末課題(1、2 学年) ・分野別指導、志望理由書作成指導、小論文指導(3 学年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・汎用的能力の育成は、学年、担任を中心に取り組んだ。週末課題は内容も含めて検討する。 ・志望理由書作成指導、小論文指導(3 学年)は、国語科、3 学年担任等が懇切丁寧に関別対応・指導を行った。2 学年も 3 学期に志望理由書作成指導を行った。
<p>7 生徒一人一人に応じた適切な進路指導 【B】</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・第一志望の実現 ・進路情報の提供 ・望ましい勤労観・職業観の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・日東駒専に 14 名合格した。 ・「進路の手引き」を発行した。 ・学習合宿は実施できなかった。

・学校外の学修－保育園実習	・学校外の学修で保育園実習 2 日間 8 名実施した。
8 自治意識、帰属意識の向上 【B】	
<ul style="list-style-type: none"> ・部活動、生徒会活動及び学校行事の充実・振興 ・部活動推進と体力向上 ・体罰禁止・根絶 ・定期的な部活動調査(部員数、活動状況、活動の成果等) ・地域行事への積極的参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動は 4 月から 5 月までの休校及び 1 月から 3 月までの部活動禁止期間、及び各種大会の中止があり、全体的には低調であった。 ・陸上競技部：全国大会 2 名出場、関東大会 2 名出場 野球部：夏季東東京大会 4 年連続 4 回戦進出 (ベスト 32) <p>【学校評価アンケート】部活動が充実している。生徒肯定的回答 82.2%</p>
9 健康・安全、社会貢献 【A】	
<ul style="list-style-type: none"> ・健康づくりの推進 アレルギー疾患対策 ・校内・外の環境美化とリサイクル意識の育成 ・不登校・中途退学の防止 ・いじめの未然防止、早期発見・早期対応 「いじめ対策委員会」を核とした取組を行う。アンケートを年間 3 回以上実施する。 教育相談体制の強化 ・防災教育の推進 「自助」「共助」の精神に基づいて適切に行動できるようにさせる。 ・奉仕体験活動の推進 ・新型コロナ感染症防止対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ対策・特別支援委員会を毎週火曜日に開催し、SC との情報共有を行った。 ・ゴミ箱を教室から撤去し、生徒へはゴミの持ち帰りを徹底した。 ・いじめアンケートを年 3 回実施し、いじめの未然防止、早期発見・早期対応に取り組み、成果を上げた。 ・養護教諭と担任の連携による教育相談体制が成果をあげた。 ・宿泊防災訓練及び上級救命講習は中止とした。 ・硬式野球部、1 学年が地域清掃を行った。 ・感染拡大防止に向け、各種対策を実施した。 <p>【学校評価アンケート】気軽に相談できる先生がいる。生徒肯定的回答 64.5%</p>
10 計画的、組織的な人材育成 【B】	
<ul style="list-style-type: none"> ・OJT、校内研修の充実 ・教員の授業力の向上 ・「生徒による授業評価」の外部機関への分析を委託 ・「学びの基盤」プロジェクトに基づく研究授業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びの基盤プロジェクト」に基づく授業研究を 4 人が実施し、指導部主任指導主事の指導を受け、授業力向上につながることができた。 ・「生徒による授業評価アンケート集計結果分析報告」は個別の結果を示すことで授業改善に係る意識向上につながった。 ・OJT の一環として新規採用 3 年目の教員の研究授業を 3 回実施した。
11 教員の使命感・倫理観、服務規律の遵守。 【B】	
<ul style="list-style-type: none"> ・服務規律の徹底 ・校内規定の整備 ・情報資産の管理の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・服務規律徹底、個人情報紛失防止を徹底した。 ・引き続き研修を行い、自覚を促す。 ・クリーンデスクの励行は、一部達成できていない。 ・教務部、生徒部で「校内規定集」見直し、整備を継続している。
12 募集・広報活動の充実 【A】	
<ul style="list-style-type: none"> ・学校見学会及び学校説明会の工夫・改善 ・入試対策講座の実施 ・ホームページの適時の更新 ・家庭・地域等の本校に対する要望の把握、対応。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により学校見学会及び学校説明会の開催には制限があったが、事前申し込みや分散開催により実施し、2037 名の参加があった。 ・部活動の制限によりホームページの更新回数が昨年度より少なかった。
13 予算、施設・設備、接遇等 【B】	
<ul style="list-style-type: none"> ・適正な予算執行と更なる経営参画 ・教育環境の更なる整備、充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・自律経営推進予算の一般需用費センター執行割合は 50%となり、目標に 10%届かなかった。 ・施設・設備の定期点検、教育環境の整備を行っ

	た。 ・入学者選抜業務等は適切に行った。
15 地域連携 【B】	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域に開かれた学校づくり ・地域の公共機関との連携による生徒の健全育成 ・日本の伝統・文化の良さを発信する能力・態度の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設開放は、コロナ禍のため実施しなかった。 ・教科「人間と社会」等、地域清掃の実施できたが、コロナ禍により連携はできなかった。

2 次年度以降の課題と対応策

(1) 学習指導

- ・「学びの基盤プロジェクト」による読解力、自ら学ぶ力を育成する。
- ・学カスタンダードを活用した教科マネジメントを徹底する。
- ・主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた授業を展開する。
- ・ICT 機器を活用した授業を推進する。
- ・JET、ALT を活用し、英語教育の改善充実を図る。
- ・土曜講習、長期休業日の講習等の充実し、進路実績に繋げる。
- ・週末課題や学習課題等を課すことで自主学習時間を伸長する。
- ・教科会、教科主任会定例開催を目指す。
- ・言語活動の充実のために図書館の利用拡大し、読書活動を推進する。

(2) 進路指導

- ・生徒一人一人の進路実現に向けて進路指導部と学年・教科、担任と保護者と連携強化するとともに、生徒一人一人の情報(学習・生活・進路希望等)の共有化を図る。
- ・小論文指導、志望理由書指導、看護体験、保育園実習等を継続的に実施する。

(3) 生活指導

- ・規範意識を醸成するために生徒部を中心として全教職員が一貫した遅刻指導、挨拶指導、身だしなみ指導を継続する。
- ・交通安全指導、特に自転車の乗り方指導を徹底する。
- ・集会やLHR等の機会を捉えて、SNS使用ルールを徹底する。
- ・不登校・中途退学防止に向けた教育相談体制を充実する。

(4) 防災教育・保健指導

- ・教室にゴミ箱を配置せず、生徒にゴミの持ち帰り及び清掃活動を徹底することで校内美化を推進する。
- ・防災教育の継続・充実し、あたらたな防災訓練を実施する。

(5) 学校行事・部活動・地域連携

- ・部活動の充実・振興、部活動加入率向上を図る。
- ・部活動や体育授業とう通して体力の更なる向上を図る。
- ・自尊感情を高める学校行事を推進する。
- ・ホームページをリニューアルし、部活動情報、募集対策情報などの情報発信に努める。
- ・防災訓練等で地域との連携を深める。

(6) 学校運営

- ・企画調整会議で分掌・学年を超え、学校改革の戦略を検討する。
- ・主幹会議で方策の検討、企画調整会議に提案し、主幹教諭6名の連携・協力体制構築する
- ・募集対策として夏季休業日中の学校案内、北区進路フェア等外部説明会参加、入試対策講座、部活動体験、上級学校訪問対応等を行う。
- ・教育職員と企画室職員の連携を深め、適切な予算執行、施設・設備の整備等円滑な学校運営を推進する。